



平成30年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年5月10日

上場会社名 デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3916 URL http://www.ditgroup.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 市川 憲和
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員 (氏名) 有地 正光 TEL 03-6311-6532
 経営企画本部長
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月15日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年6月期第3四半期の連結業績（平成29年7月1日～平成30年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第3四半期	8,339	10.1	651	22.2	645	26.7	434	23.3
29年6月期第3四半期	7,573	8.5	533	12.9	509	6.9	352	20.5

(注) 包括利益 30年6月期第3四半期 451百万円 (24.0%) 29年6月期第3四半期 364百万円 (22.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第3四半期	28.23	—
29年6月期第3四半期	22.98	22.73

- (注) 1. 当社は、平成28年10月1日付及び平成30年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。
2. 30年6月期第3四半期における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第3四半期	3,990	2,536	63.6
29年6月期	3,713	2,414	65.0

(参考) 自己資本 30年6月期第3四半期 2,536百万円 29年6月期 2,414百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00
30年6月期	—	10.00	—	—	—
30年6月期(予想)	—	—	—	5.00	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は、平成30年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成30年6月期(予想)の期末の1株当たり配当金については、株式分割を考慮した金額で記載しております。なお、株式分割を考慮しない場合の平成30年6月期(予想)の期末の1株当たり配当金は10円00銭、合計では20円00銭となります。

3. 平成30年6月期の連結業績予想（平成29年7月1日～平成30年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,820	5.3	730	11.7	725	13.1	493	5.8	32.06

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は、平成30年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該株式分割後の発行済株式数（自己株式数を除く）により算定しております。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年6月期3Q	15,501,820株	29年6月期	15,501,820株
② 期末自己株式数	30年6月期3Q	140,464株	29年6月期	380株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年6月期3Q	15,389,011株	29年6月期3Q	15,329,002株

（注）当社は、平成28年10月1日付及び平成30年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年7月1日～平成30年3月31日)は、海外情勢の不透明感が継続しつつも、企業の設備投資と個人消費などの内需を中心に緩やかな景気の持ち直しが続いており、経営環境は引き続き改善傾向となりました。

当社が属する情報サービス産業においては、IT人材不足という課題を抱えながらも、従来の事業領域に加え、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)、ビッグデータ、ロボット、AI(Artificial Intelligence:人工知能)、Fintech(Finance Technology:フィンテック)、等の新分野が広がりを見せており、当社グループにとってもビジネス参入機会の増加と事業領域の拡大に繋がっております。

また、経済産業省のサイバーセキュリティ経営ガイドラインの改訂版(2017年11月公開)において「検知」と「復旧」が追加されるなど情報システム全体の「セキュリティ対策」強化に対する気運が高まっていることや、我が国全体の課題となっている「働き方改革」には引き続き高い関心が寄せられており、これらに対して有効なソリューションを有する当グループの追い風となっております。

このような環境の下、当社グループでは、中期経営計画として次の「5つの事業戦略」を掲げ、積極的な取り組みを継続しております。

- ・リノベーション(既存事業の改革による経営の安定化)
- ・イノベーション(自社商品を軸とした新しい価値創造)
- ・競合から協業へ(協業による事業拡大)
- ・開発からサービスへ(サービス視点での事業拡大)
- ・人材調達・人材育成(採って育てる)

平成30年6月期は、中期経営計画の3年目として「事業基盤の安定化」と「成長要素の強化」に取り組んでおり、過去2期の取り組み成果と課題を踏まえた新たなステージで経営を進めております。

こうした取り組みの中で、「リノベーション」については、金融機関の情報化投資の継続と、医療・製薬分野、自動車関連業界の設備投資の増加に伴い、堅調な伸びを示しました。

「イノベーション」については、独自技術による自社商品であるWebセキュリティソリューション「WebARGUS:ウェブアルゴス」(*1)およびExcel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos:ゾブロス」(*2)の前期から進めている商品力拡充と販売強化の効果により、堅調な伸びを示しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高8,339,037千円(前年同四半期比10.1%増)、営業利益651,430千円(同22.2%増)、経常利益645,150千円(同26.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は434,406千円(同23.3%増)となりました。

(*1)Webセキュリティソリューション「WebARGUS(ウェブアルゴス)」は、ウェブサイト等の改ざんを発生と同時に検知し、瞬時に元の正常な状態に復元できる、新しい方式のセキュリティソリューションです。改ざんの瞬間検知・瞬間復旧により、悪質な未知のサイバー攻撃の被害から企業のウェブサイト等を守ると同時に、改ざんされたサイトを通じたウイルス感染などの被害拡大を防ぎます。

(*2)Excel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos(ゾブロス)」は、Excelベースの非効率な業務を自動化します。これにより短期間で劇的に業務を効率化することができます。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、以下の事業別売上高、セグメント利益(営業利益)及びセグメント損失(営業損失)は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

①ソフトウェア開発事業

ビジネスソリューション事業分野は、既存顧客を中心とした受注が引き続き順調に推移しました。

エンベデッドソリューション事業分野は、車載機器関連が順調な伸びを示し、加えてスマートフォンを中心とするモバイル関連のアプリ開発や各種半導体関連の組み込み開発の受注の増加もあり力強い伸びを示しました。

自社製品事業分野は、製品のシリーズ化や展示会への出展を積極的に行うなど、商品戦略と販売戦略の成果により、順調な伸びとなりました。

これらの結果、ソフトウェア開発事業の売上高は7,866,835千円(前年同四半期比10.9%増)、セグメント利益(営業利益)は658,292千円(同22.9%増)となりました。

②システム販売事業

カシオ計算機株式会社製中小企業向け「楽一」を主力とする販売ビジネスにおいて、当事業年度より対象マーケット拡大を狙った新たな営業施策を進めてきましたが、当第3四半期連結累計期間は苦戦を強いられました。

これらの結果、システム販売事業の売上高は480,167千円(前年同四半期比0.6%減)、セグメント損失(営業損失)は6,428千円(前年同四半期は営業損失4,525千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

①流動資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ244,786千円増加し、3,384,241千円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が243,989千円並びにその他が73,871千円それぞれ増加し、現金及び預金が40,421千円、仕掛品が44,515千円それぞれ減少したことによるものです。

②固定資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ31,438千円増加し、605,880千円となりました。これは、主に有形固定資産が26,205千円、投資その他の資産が7,566千円それぞれ増加し、無形固定資産が2,332千円減少したことによるものです。

③流動負債

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ271,993千円増加し、1,295,538千円となりました。これは、主に賞与引当金が177,023千円及び未払法人税等が28,803千円、その他が80,477千円それぞれ増加し、1年内返済予定の長期借入金が29,616千円減少したことによるものです。

④固定負債

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ117,745千円減少し、157,783千円となりました。これは、主にその他が152,020千円増加し、長期借入金が4,810千円及び退職給付に係る負債が264,956千円それぞれ減少したことによるものです。

⑤純資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ121,977千円増加し、2,536,800千円となりました。これは、主に利益剰余金が241,338千円、その他有価証券評価差額金が17,207千円それぞれ増加し、自己株式の取得により自己株式が136,766千円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年8月10日に公表いたしました通期連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,346,391	1,305,970
受取手形及び売掛金	1,555,541	1,799,531
商品	15,261	22,664
仕掛品	129,558	85,042
その他	97,401	171,273
貸倒引当金	△4,699	△240
流動資産合計	3,139,455	3,384,241
固定資産		
有形固定資産	91,656	117,861
無形固定資産	23,787	21,455
投資その他の資産		
その他	488,118	499,738
貸倒引当金	△29,120	△33,174
投資その他の資産合計	458,997	466,564
固定資産合計	574,442	605,880
資産合計	3,713,897	3,990,122
負債の部		
流動負債		
買掛金	317,983	333,206
1年内返済予定の長期借入金	32,800	3,184
未払法人税等	133,736	162,540
賞与引当金	—	177,023
受注損失引当金	—	80
その他	539,025	619,503
流動負債合計	1,023,545	1,295,538
固定負債		
長期借入金	4,810	—
退職給付に係る負債	269,291	4,334
その他	1,428	153,448
固定負債合計	275,529	157,783
負債合計	1,299,074	1,453,322
純資産の部		
株主資本		
資本金	453,156	453,156
資本剰余金	459,214	459,214
利益剰余金	1,496,598	1,737,936
自己株式	△457	△137,223
株主資本合計	2,408,511	2,513,083
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,705	20,912
為替換算調整勘定	2,606	2,804
その他の包括利益累計額合計	6,311	23,716
純資産合計	2,414,823	2,536,800
負債純資産合計	3,713,897	3,990,122

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成30年3月31日)
売上高	7,573,569	8,339,037
売上原価	5,784,853	6,369,184
売上総利益	1,788,716	1,969,853
販売費及び一般管理費	1,255,535	1,318,422
営業利益	533,180	651,430
営業外収益		
受取利息	10	252
受取配当金	37	60
受取手数料	2,998	3,297
助成金収入	660	3,210
保険解約返戻金	521	—
その他	1,334	854
営業外収益合計	5,563	7,675
営業外費用		
支払利息	1,022	882
支払手数料	11,853	1,171
為替差損	3,647	4,253
保険解約損	994	2,412
事務所移転費用	—	5,234
訴訟関連費用	9,012	—
その他	2,851	—
営業外費用合計	29,382	13,954
経常利益	509,362	645,150
税金等調整前四半期純利益	509,362	645,150
法人税、住民税及び事業税	218,971	246,113
法人税等調整額	△61,878	△35,368
法人税等合計	157,093	210,744
四半期純利益	352,268	434,406
親会社株主に帰属する四半期純利益	352,268	434,406

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成30年3月31日)
四半期純利益	352,268	434,406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	118	17,207
為替換算調整勘定	1,024	198
退職給付に係る調整額	10,916	—
その他の包括利益合計	12,059	17,405
四半期包括利益	364,328	451,811
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	364,328	451,811

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年8月23日開催の取締役会決議に基づき、自己株式70,000株の取得等を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が136,766千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が137,223千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	システム販売事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,091,027	482,542	7,573,569	—	7,573,569
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,271	352	3,623	△3,623	—
計	7,094,298	482,894	7,577,193	△3,623	7,573,569
セグメント利益又は損失(△)	535,584	△4,525	531,059	2,121	533,180

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額2,121千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年7月1日至平成30年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	システム販売事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,862,441	476,595	8,339,037	—	8,339,037
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,393	3,572	7,965	△7,965	—
計	7,866,835	480,167	8,347,003	△7,965	8,339,037
セグメント利益又は損失(△)	658,292	△6,428	651,864	△434	651,430

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△434千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

平成30年2月14日開催の当社取締役会の決議に基づき、次のように株式分割による新株式を発行しております。

平成30年4月1日をもって普通株式1株につき2株に分割しました。

(1) 分割により増加する株式数

普通株式7,750,910株

(2) 分割方法

平成30年3月31日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有株式数を、1株につき2株の割合をもって分割します。

なお、「1株当たり情報」は、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算出しております。